

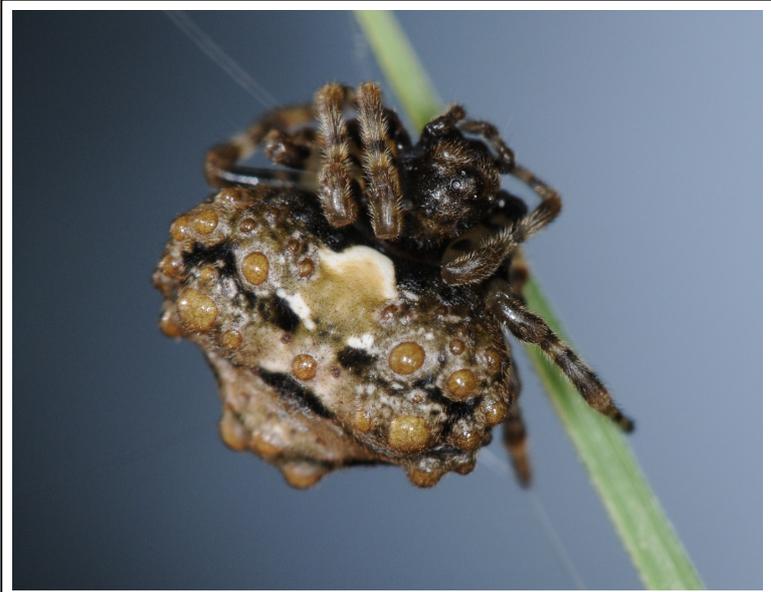
マメタイセキグモ *Ordgarius hobsoni* (O. P.-Cambridge)

【選定理由】

全国的に採集記録は少ない。
県内でも発見例は少なく、特に雄は採集されていない。

【形態】

体長雌 8~9mm、雄 2mm 前後。腹部背面から側方・後方にかけて多数の褐色半球状の隆起がある。マメイタの名は、褐色半球状の隆起が和菓子の豆板に似ているからで、イセキは発見者の井関氏の名に因んで付けられた。



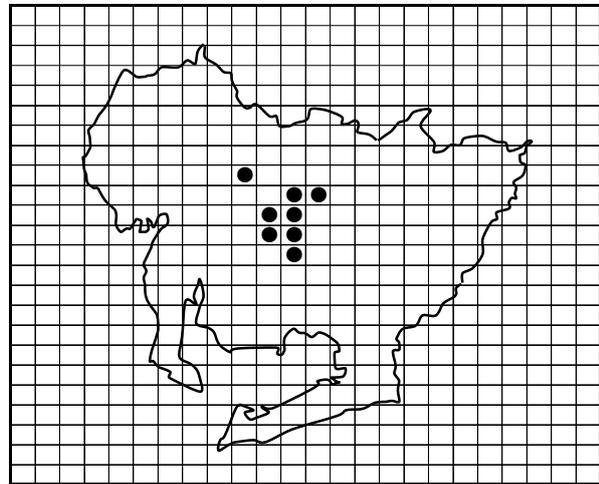
岡崎市町夏山町おおだの森, 2012年7月25日, 緒方清人 撮影

【分布の概要】

県内では、日進市五色園、岡崎市夏山町、豊田市琴平町・加茂川町・王滝町・野見町・勘八町・足助町、新城市日吉で確認されたが、どの地域も単独個体である。

国内では、本州、四国、九州、南西諸島に分布する(新海ほか, 2018)。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

ススキなどイネ科植物を好み、昼間は葉裏に静止し夜間に活動する。第2脚の先端に粘球の付いた糸を釣り下げ、それを回転させて蛾の仲間を捕獲する。

【現在の生息状況／減少の要因】

散発的に発見される程度で、減少の要因は不明である。

【保全上の留意点】

もともと個体数は少なく、発見地の保全が重要である。

【引用文献】

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2018. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑. p.112. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2006. 日本のクモ. p.165. 文一総合出版, 東京.

小野展嗣編著, 2009. 日本産クモ類, pp.429,623. 東海大学出版会, 神奈川.

小野展嗣・緒方清人, 2018. 日本産クモ類 生態図鑑, pp.189,518. 東海大学出版会部, 神奈川.

(緒方清人)